

令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和7年6月3日
大学分科会教務部会資料

評価日時：令和7年6月3日
会議名称：玉川学園教育活動等点検調査委員会大学分科会教務部会
目 的 ：令和6年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価
評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
学内からの観点		
〔観点1〕プログラムの履修・修得状況	令和6年度の履修者数は1,245名（履修率18.9％）であり、令和6年度の目標の1,320名（履修率20％）を下回る結果となった。令和5年度からは8名増加した。修得者数は898名で令和5年度からは28名増加した。令和6年度から経営学部とリベラルアーツ学部が「数理・データサイエンス・AIリテラシー」を学部で開講したことにより履修者数および修得者数が増加したことが要因として考えられる。また、昨年度に続いて農学部と工学部は他学部と比較すると履修者が多数であった。学部による履修者数の増減は、入学者数の増減にも影響していることが要因の一つとしてあると考える。前年度に引き続き、全体的には文理を問わず、多くの専門分野の学生が履修していることが確認できた。令和6年度から開始した通信教育課程では9名履修し、全員修得した。 今後は、昨年度以上に「一年次セミナー101,102」や履修ガイダンス等での本プログラムの周知を促進し、各年度の目標とする履修者数確保に努める。また、教職課程受講者の履修促進を目的として、教育学部の令和6年度入学生より免許法施行規則第66条の6に定める科目として設定したため、昨年度に引き続き、その履修方法について検討し、履修率の向上を目指す。	・履修者数・修得者数の実績と履修者数の目標 ・〔観点1〕プログラム履修・修得状況 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について
〔観点2〕学修成果	本学の成績評価は「知識・理解」だけでなく、「汎用的技能」、「態度・志向性」の達成度評価も含めた評価となっている。このことから、各科目の成績評価が各修得者の学修成果とみることができる。プログラム修得者のプログラム科目のみGPAと全US科目GPAの比較を学部別でしたところ、8学部中7学部がプログラム科目の方がGPAが高いという結果であった。	・プログラム修得者のプログラム科目のみGPAと全学US科目GPAの比較

令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和7年6月3日
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点		評価・意見	資料等
〔観点3〕学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。学生の内容の理解度については、「理解できた」が62%、「やや理解できた」が35%で合わせて97%となり、昨年度同様、高い割合の学生が理解できたと感じていることが確認できた。 「一年次セミナー101/102」では、本プログラムに関する解説動画をリニューアルし、視聴後に実施したの確認テスト（春1回、秋2回、計3回）において、受験者（全体の78.21%）のうち、95.76%が合格点（60点以上）を取得した。この結果から、受講者の大半が概ね目標とする理解度に到達していると判断できる。 また、「数理・データサイエンス・AIリテラシー」では、授業における理解度を各回の演習課題結果で確認し、理解度が低い学生に対して解説やコメント等のフォローを行った。その結果、課題の提出率が平均90%を超えており、さらに、第1回と第15回の授業でアンケートの結果から、知識量と理解度が向上していることを確認することができた。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート① ・〔観点3〕学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について
	〔観点4〕学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。後輩等他の学生への推奨度については、「推奨したい」が76%、「やや推奨したい」が24%であり、昨年度同様、アンケートに回答した全学生が肯定回答であったことが確認できた。 また、「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の授業においてアンケートを実施した。その結果、今後の大学生活や就職後に役立つという観点において高い評価を得ることができた。また、「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の講義内で扱った学習内容についての評価からも他の学生への推奨度が得られていると考えられる。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート② ・〔観点4〕学生アンケート等を通じた後輩他の学生への推奨度 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について

令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和7年6月3日
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点		評価・意見	資料等
〔観点5〕全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		全学部必修科目「一年次セミナー101,102」での本プログラムの周知、広報を行い、令和6年度から経営学部とリベラルアーツ学部が「数理・データサイエンス・AIリテラシー」を学部で開講したことにより履修者が増加した。今後も学部で同科目を開講することを推奨する。 さらに、今後、下記の取り組みを講じ、引き続き、各年度の目標とする履修者数確保に努める。 ・新入生ガイダンス等での本プログラム周知 ・オープンキャンパス等での本プログラム周知 ・専任教員のオフィスアワーの実施 ・授業外学修支援（ラーニング・コモンズにおける学修支援を含む） ・Blackboardによる24時間の学びの確保 ・本プログラム専用WEBサイト等による学内外周知・情報提供	・プログラム専用WEBサイト (https://www.tamagawa.ac.jp/tuaa/ai/ai-literacy/)
学外からの観点			
〔観点6〕教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		令和6年度の本プログラム修了者のうち、卒業生は73名であった。そのうち、卒業後の進路（職種）を調査した結果、営業職22名、情報処理技術者12名、販売職4名が特に多い職種であった。昨年度同様、文理を問わない職種が多いことが確認できた。修了者の活躍状況、企業等の評価については、実施するまでには至らなかった。修了者の活躍状況や評価を確認する方法を引き続き検討していく。	・令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了者 進路（職種）
〔観点7〕産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容・手法等への意見を得るために、本年度は、複数の企業との連携を強め、積極的な意見交換を行うことができた。具体的には、本学キャリアセンターを通じて企業を対象にアンケートを実施し、その結果に基づき、授業内容の改善や産学連携の可能性について検討した。また、産業界を含む数理・データサイエンス・AI教育推進のための交流会への出席や、研究会・シンポジウム等での講演を通じて、意見交換を行った。	・本プログラムに関するアンケート（企業用） ・武藤ゆみ子,佐々木寛, 伊従記章", 玉川大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」,数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム“関東ブロック 産学連携交流会", 2024年12月9日 ・武藤ゆみ子, "情報Iとの接続を考慮した文理横断教養教育としてのデータサイエンス・AIリテラシー教育", 教育工学会2025年春季全国大会, 1-S10A1, 2025年3月8日 他

令和6年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和7年6月3日
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
〔観点8〕数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。学生の本プログラムを通じてデータサイエンスや人工知能を学ぶことの意義については、「理解できた」が70%、「やや理解できた」が30%となり、昨年度同様、アンケートに回答した全学生が肯定回答であったことが確認できた。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート③ ・〔観点8〕数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について
〔観点9〕内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。講義内容のわかりやすさについては、「わかりやすかった」が70%、「ややわかりやすかった」が27%で合わせて97%となり、昨年度同様、高い割合の学生が理解できたと感じていることが確認できた。 また、動画コンテンツの作成を行い、授業をさらに分かりやすくするための工夫を行った。「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の学生アンケートの結果から、授業内容の理解を確認することができたため、十分分かりやすい授業とすることができたと考える。 今後は、内容・水準の維持向上のために、本プログラムの理解促進を目指し、科目担当者に向けた説明会の実施や説明資料の配付を検討する。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート① ・〔観点9〕内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について